**取り組みたい研究テーマ： ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○**

**１．これまでの修学内容**

**注意事項（本欄は提出時は削除してください）**

**◎ ヘッダー部分について**  
氏名・現在の専門・希望研究室は、ヘッダー部分をダブルクリックすることで入力可能です。現在の専門については、今まで取り組んできた学問分野や研究分野を端的に示す分野名をわかりやすく記入してください。

**◎ 本文について**  
本文は、A4用紙2ページで作成してください。「これまでの修学内容（卒業研究等）」 と 「本学にて取り組む研究課題について」 の内容を含めてください。各内容の文量および章構成は自由です（背景・課題・解決手段・予想される成果などを含めることを推奨します）。なお、用紙1枚で内容（図表を含む）が完結する場合でも、必ず2枚とも提出してください。

**◎ 図・表・数式などについて**重要な説明には、なるべく図、表、数式、化学反応式、化学構造式などを使って下さい。オンライン入試における口述発表や口頭試問では、小論文の図を引用して説明することが出来ます。

*※本文章は提出時に削除してください*

*卒業研究として取り組んでいる研究内容について説明してください（開始していない場合には今まで履修してきた科目内容、興味を持って学修してきたことについて記載してください）。*

この文章はダミーです。提出時に削除してください。情報科学領域では、Society5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会）の実現、SDGs（持続可 能な開発目標）の達成においてキーテクノロジーとなる、情報科学およびその関連分野 における先端科学技術について教育研究を行っています。コンピューティング（ソフトウェア・ハードウェア）、情報ネットワーク、セキュリティに関する「コンピュータ科学」、コンピュータと人間のインタラクション、言語・音声・視覚情報など様々なメディアに関する「メディア情報学」、ロボティクスやシステム解析、バイオ情報処理に関する「システム情報学」の３つの教育研究分野にわたり、20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、また自由闊達に競争しています。コンピュータサイエンス、メディア、ロボティクス、システム、データサイエンスなど様々な分野で、若い研究者が力量を発揮できる環境を整備し、我が国と世界の情報基盤を支える突出した研究成果の創出と、高度な専門性を身につけた研究者と技術者の育成 を目指しています[1]。

この文章はダミーです。提出時に削除してください。情報科学領域では、Society5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会）の実現、SDGs（持続可 能な開発目標）の達成においてキーテクノロジーとなる、情報科学およびその関連分野 における先端科学技術について教育研究を行っています。コンピューティング（ソフトウェア・ハードウェア）、情報ネットワーク、セキュリティに関する「コンピュータ科学」、コンピュータと人間のインタラクション、言語・音声・視覚情報など様々なメディアに関する「メディア情報学」、ロボティクスやシステム解析、バイオ情報処理に関する「システム情報学」の３つの教育研究分野にわたり、20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、また自由闊達に競争しています。コンピュータサイエンス、メディア、ロボティクス、システム、データサイエンスなど様々な分野で、若い研究者が力量を発揮できる環境を整備し、我が国とと世界の情報基盤を支える突出した研究成果の創出と高度な専門性を身につけた研究者と技術者の育成 を目指しています[1]。情報科学領域では、Society5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会）の実現、SDGs（持続可 能な開発目標）の達成においてキーテクノロジーとなる、情報科学およびその関連分野 における先端科学技術について教育研究を行っています。コンピューティング（ソフトウェア・ハードウェア）、情報ネットワーク、セキュリティに関する「コンピュータ科学」、コンピュータと人間のインタラクション、言語・音声・視覚情報など様々なメディアに関する「メディア情報学」、ロボティクスやシステム解析、バイオ情報処理に関する「システム情報学」の３つの教育研究分野にわたり、20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、また自由闊達に競争しています。コンピュータサイエンス、メディア、ロボティクス、……、高度な専門性を身につけた研究者と技術者の育成 を目指しています[1]。

![テキスト, 地図 が含まれている画像

自動的に生成された説明]()

図1. サンプルのグラフ

**２．取り組みたい内容**

表1. サンプルの実験結果

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| Method | Precision | Recall | F-value |
| A [2] | 0.672 | 0.662 | 0.666 |
| B [3] | 0.802 | 0.751 | 0.777 |
| C [4] | 0.821 | 0.695 | 0.765 |
| D [5] | 0.825 | 0.801 | 0.803 |
| Proposed | 0.901 | 0.876 | 0.888 |

*※本文章は提出時に削除してください*

*奈良先端大において取り組みたい研究分野・テーマについて記載してください。*

この文章はダミーです。提出時に削除してください。情報科学領域では、Society5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会）の実現、SDGs（持続可 能な開発目標）の達成においてキーテクノロジーとなる、情報科学およびその関連分野 における先端科学技術について教育研究を行っています。コンピューティング（ソフトウェア・ハードウェア）、情報ネットワーク、セキュリティに関する「コンピュータ科学」、コンピュータと人間のインタラクション、言語・音声・視覚情報など様々なメディアに関する「メディア情報学」、ロボティクスやシステム解析、バイオ情報処理に関する「システム情報学」の３つの教育研究分野にわたり、20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、また自由闊達に競争しています。コンピュータサイエンス、メディア、ロボティクス、システム、データサイエンスなど様々な分野で、若い研究者が力量を発揮できる環境を整備し、我が国と世界の情報基盤を支える突出した研究成果の創出と、高度な専門性を身につけた研究者と技術者の育成 を目指しています。コンピュータサイエンス、メディア、ロボティクス、システム、データサイエンスなど様々な分野で、若い研究者が力量を発揮できる環境を整備し、我が国と世界の情報基盤を支える突出した研究成果の創出と、高度な専門性を身につけた研究者と技術者の育成 を目指しています[1]。

情報科学領域では、Society5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会）の実現、SDGs（持続可 能な開発目標）の達成においてキーテクノロジーとなる、情報科学およびその関連分野 における先端科学技術について教育研究を行っています。コンピューティング（ソフトウェア・ハードウェア）、情報ネットワーク、セキュリティに関する「コンピュータ科学」、コンピュータと人間のインタラクション、言語・音声・視覚情報など様々なメディアに関する「メディア情報学」、ロボティクスやシステム解析、バイオ情報処理に関する「システム情報学」の３つの教育研究分野にわたり、20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、また自由闊達に競争しています。コンピュータサイエンス、メディア、ロボティクス、システム、データサイエンスなど様々な分野で、若い研究者が力量を発揮できる環境を整備し、我が国と世界の情報基盤を支える突出した研究成果の創出と、高度な専門性を身につけた研究者と技術者の育成 を目指しています[1]。

情報科学領域では、Society5.0（仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会）の実現、SDGs（持続可 能な開発目標）の達成においてキーテクノロジーとなる、情報科学およびその関連分野 における先端科学技術について教育研究を行っています。コンピューティング（ソフトウェア・ハードウェア）、情報ネットワーク、セキュリティに関する「コンピュータ科学」、コンピュータと人間のインタラクション、言語・音声・視覚情報など様々なメディアに関する「メディア情報学」、ロボティクスやシステム解析、バイオ情報処理に関する「システム情報学」の３つの教育研究分野にわたり、20あまりの研究室が協力し、切磋琢磨し、また自由闊達に競争しています。

**参考文献**

[1] 奈良先端科学技術大学院大学：国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 GUIDEBOOK 2022-2023, <https://www.naist.jp/publications/guidebook/> (accessed: 2022/11/24)

…

[10] A. Bcdef, G. Hijklm, N. Opqrst: An example reference for NAIST-IS exam, In Proceedings of the 31st international conference on example science, pp.20-22, 2022.